

2025 EVENT SCHEDULE

企画展

石見の祈りと美—未来へつなぐ中世の宝—

4月26日(土)～6月16日(月) 展示室D

平安時代末から安土桃山時代までの石見ゆかりの美術工芸品を展示し、それらが制作された背景、果たしていた役割、今日まで守り伝えられた営みについて紹介します。



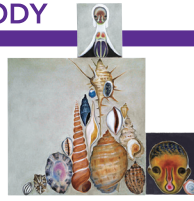
雲舟等繪《四季花鳥図屏風》(右隻) 室町時代・15世紀
京国立博物館蔵 重要文化財 【展示期間:5月21日～6月16日】

企画展

加藤泉 何者かへの道 IZUMI KATO: ROAD TO SOMEBODY

7月5日(土)～9月1日(月) 展示室A・C・D

鳥根県出身で国際的に活躍する加藤泉の過去最大規模の個展。油彩による「人がた」の表現から出発し、木、石、プラモデルなど様々な素材を取り入れてきた歩みを振り返ると同時に、新作も発表します。



加藤泉 (Untitled) 2024年
撮影:岡野圭 © 2024 Izumi Kato

企画展

生誕100年 森英恵 —ヴァイタル・タイプ—

9月20日(土)～12月1日(月) 展示室C・D

ファッションデザイナー森英恵の没後初となる大規模個展。森はデザイナーであり、母や妻であり、快活で努力を惜しまない「ヴァイタル・タイプ」でした。本展では世界的に活躍した森の生き方やものづくりの哲学を、オートクチュールのドレスや写真、資料を通じて紐解きます。



森英恵 (カフタン、ドレス)
1976年 当館蔵

企画展

美術館がうまれて、それから —コレクションと石見美術館の20年—

12月20日(土)～2026年2月23日(月・祝) 展示室D

開館20周年を記念して、「石見美術館」をテーマとした展覧会を開催します。本展では、コレクションや資料、これまでの収集・展示活動や調査研究の成果を通じて、石見美術館が歩んできた20年を振り返ります。



岡田三郎助《黒き帯》
1915年 当館蔵

石見美術館 EVENT SCHEDULE

※本スケジュールに掲載されている内容は変更となる場合があります。※掲載されている展覧会、公演等の詳しい情報は、グラントワホームページをご覧ください。

	4 April	5 May	6 June	7 July	8 August	9 September	10 October	11 November	12 December	1 January 2026	2 February	3 March
展示室 A	コレクション展 思い出の土地	6 8 藤島武二 (西洋婦人像)	23 コレクション展 石見人 森林太郎、 美術ヲ好ム	5	企画展 加藤泉 何者かへの道 IZUMI KATO: ROAD TO SOMEBODY	1 6	コレクション展 津和野藩ゆかりの日本画	27 29 雲谷派 (四季山水図屏風) 左隻(部分)	コレクション展 雲谷派	1 3 コレクション展 大下藤次郎 絵筆と文筆	12 14 大下藤次郎 (舟遊湖の黄昏)	2 コレクション展 森村泰昌
展示室 B	コレクション展 「天龍」の人 —宮芳平の世界	6 9	23 コレクション展 技と美 石見根付の世界	5 18 22 富春(鮫に蟹)	18 22	特別展 石州和紙といわみのくらし (石州半紙)	24 27	24 27	コレクション展 アールデコ 博覧会100年	22 24	特別展 塚原重義監督「女生徒」「押絵ト旅スル男」	23 [押絵ト旅スル男] © 青森県立美術館・静岡県立美術館・鳥根県立石見美術館・塚原重義 / トワフロ
展示室 C	コレクション展 ポフレとウィーン工房	6 9	23 コレクション展 コレクションにみる女性	5 1 草間彌生 (HORIZONTAL-B) 1953年 © YAYOI KUSAMA	5 1	企画展 加藤泉 何者かへの道 IZUMI KATO: ROAD TO SOMEBODY	20	企画展 生誕100年 森英恵—ヴァイタル・タイプ—	1 6	1 6	コレクション展 刻一刻 澄川喜一	23 澄川喜一(屏)
展示室 D	26	企画展 石見の祈りと美 —未来へつなぐ中世の宝—	16	5	企画展 加藤泉 何者かへの道 IZUMI KATO: ROAD TO SOMEBODY	1	20	企画展 生誕100年 森英恵—ヴァイタル・タイプ—	1	20	企画展 美術館がうまれて、それから —コレクションと石見美術館の20年—	23 28 2 6 9 19 22 全島根小中学校 回画作品展 益田展 第58回鳥根県 総合美術展 (県展)移動展 第41回 益田市 美術展

その他のイベントは、随時WEBサイトで紹介します。 www.grandtoit.jp

いわみ芸術劇場 EVENT PICK UP

しまね伝統芸能祭2025 オープニング公演 『渡来バード、ドライバー』

4月27日(日) グラントワ中庭
県内各地で伝統芸能に光を当てる「しまね伝統芸能祭2025」の1プログラムとして開催。現代アーティスト4名が鳥根県の多様な伝統芸能の原点である自然や風土をリサーチし、新たな解釈で表現します。グラントワ中庭の水盤を舞台に、美術と音楽が織りなす一夜限りの幻想的な時間をぜひご体験ください。
出演者:大口俊輔(音楽家)、福原千鶴(小鼓奏者)、志人(詩人)、中山晃子(画家)



野村萬斎 狂言のタベ

5月16日(金) 大ホール
開館20周年を記念し、狂言師、伝統芸能の継承者として、舞台・ドラマ・映画出演など、ジャンルを超えて活躍する野村萬斎が登場。現在でも特別な記念の催しなどで演じられる、五穀豊穡を願う舞「三番叟」を勤めます。本舞台と橋掛りを上手く使った狂言ならではの表現が人気の「六地藏」とともに、出演者による分かりやすい解説を交えてお届けします。600年を超える伝統を誇るなごやかな笑いの芸術をご堪能ください。



渡辺貞夫カルテット 2025

6月22日(日) 大ホール
90歳を越えてなお日本を代表するトップミュージシャンとして、ジャズの枠にとどまらない独自のスタイルで世界を舞台に活躍するサクソフォン奏者・渡辺貞夫。70年を超えるキャリアを第一線で演奏し続け世界中に勇気と感動を与えている同氏と、ピアノ小野塚晃、ベース三嶋大輝、ドラム竹村一哲による珠玉のカルテット公演です。卓越したパフォーマンスで、心に響く特別な夜をお届けします。



劇団あしぶえ 「セロ弾きのゴーシュ」公演

10月5日(日) 小ホール
劇団あしぶえが初演から33年間追及し続け、200回以上の上演で4万人が観劇した宮沢賢治原作「セロ弾きのゴーシュ」公演。アメリカ、カナダの演劇祭において6つの国際賞を受賞している劇団あしぶえ渾身の舞台です。長きにわたる上演を経て、演出家・園山土筆の演出と俳優の演技力で表現される深みある舞台は、多くの人の心を揺さぶります。演劇の魅力が詰まった名作をどうぞお楽しみください。

